

御原保育所自己評価表（令和7年度）

園名	御原保育所	評価方法	評価基準	
記入者	所長 砂田 裕子		A	達成できた
記入日	R8.3月		B	ほぼ達成できた
			C	一部改善を要する
			D	改善を要する

評価項目	評価内容	評価	所見・課題
保育理念 目 標 計 画 評 価	① 保育方針を理解している。	B	・年度の初めに全職員で目標・方針を確認する機会を持った。 ・月のカリキュラム作成にあたって、担任・主任で打ち合わせを持つことができた。
	② 保育方針や目標に基づいて、クラスの年間目標を立てている。	A	
	③ 担任間で話し合って、保育目標を立てている。	A	
	④ 各年齢の発達段階に合わせた指導計画は、ひとりひとりの発達にも留意している。	A	
	⑤ 自らの保育を振り返り、向上や改善に努めている。	A	
	⑥ 個人情報適切に取り扱うとともに、保護者の苦情に対し、その解決を図るよう努めている。	A	
保育内容	① 保育や生活の中で「ねらい」や「内容」が達成されるよう配慮している。	A	・年間計画に基づき、月案や週案を立案している。 ・子どもの思いを受け止め、保育を行っていった。
	② 子どもひとりひとりの思いを受け止め、支援やなかまづくりに努めている。	A	
	③ 子どもたちの主体性を育む保育環境の整備・計画が立てられている。	B	
	④ 行事の計画や実施にあたっては、以前の反省や評価を反映している。	A	
人権保育	⑤ 「子どもを尊重する」ことや「子どもの人権擁護」について意識をもち適切な関りができている。	B	・子どもの人権について研修を行い、各自保育の振り返りや見直しを行った。 ・保護者への啓発 クラス懇談会の際、人権の視点で選んだ絵本の紹介、テーマを決めての学習を行った。（教科書無償について・子どもの権利条約について）
	⑥ 生活や遊びの中で意欲を大事にし、頑張ろうとする力・自信・自己肯定感を持てるような言葉かけや援助をしている。	A	
	⑦ 保護者へ保育所での人権・同和保育の取り組みを通し人権・同和問題の啓発に努めている。	A	
	⑧ 「ハラスメント」「虐待」の研修を行う。	B	
	⑨ 「虐待」を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が園長及び関係機関に届く体制が取れている。	B	
保育環境	① 保育室の整理整頓に努め、子どもたちが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	A	・子どもの発達や興味関心に合わせて玩具や遊具を準備した。
	② 子どもの発達段階に即し、安全な玩具・遊具が用意されている。	B	

	③ 玩具や遊具・砂場の消毒、園庭の危険物の排除や固定遊具の点検を定期的に行っている。	A	
健康管理・食 事	① 登園時の視診・連絡帳などで健康状態の確認を行う。	A	・感染症の流行時には園だより等で予防の啓発を行った。 ・アレルギー児への対応については、マニュアルに沿って全職員で共通認識をし、提供にあたった。
	② 健康診断や歯科検診の結果について保護者や職員に伝達し、必要に応じて適切な治療を受けてもらう。	A	
	③ 感染症対応についてマニュアルがあり、発生に際しては必要に応じて保護者の連絡している。	A	
	④ アレルギー疾患を持つ子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。	A	
	⑤ 食事を楽しむことができる工夫がされている。	A	
	⑥ 食器の材質や形などに配慮している。	A	
安全・衛生管理	① 事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	B	・マニュアルを全職員で確認し、いつでも見れる場所を確保した。 ・会議の中でヒヤリハット事例を共有し事故防止に務めた。
	② 会議の中でヒヤリハット事例の共有をし、事故防止に向けた取り組みを行う。	B	
	③ 一斉メールの利用・引き渡しカードなど災害時に向けての内容の見直しや確認を行う。	B	
家庭・地域との連携	① 保護者に対して、丁寧な言葉遣いと対応を心がけている。	A	・保護者との信頼関係づくりに努め、子どもを中心に子育てを進める姿勢を示す。 ・保護者からの意見やクレームを真摯に受け止め、必要に応じ改善を行っていく姿勢を大切にする。(思いや、願いの背景)
	② 送迎時や連絡帳を利用し、子どもの様子を伝え保護者との連携を図る。	A	
	③ 家庭訪問や保護者の面談を定期的に行い保護者との信頼関係を深め、保護者連携を図る。	A	
	④ 保護者対応は公平・平等に努める。	A	
	⑤ 地域や保護者の意見を保育などに反映している。	B	
組織・運営	① 保育の質の向上や改善のための取り組みを、職員参加により行っている。(職員会議)	A	
	② 定期的な自己評価を行う。	A	
	③ 職員の研修ニーズを把握し、研修の機会を設ける。	B	

総 評

○保護者啓発を考え、クラス懇談会時に学習会を行った。保育所での取り組みを重ねて伝えたことで保育活動への理解が深まった。

○保護者参加の行事の拡大(人数・内容等)が行えた。

○保育参加を取り入れることで、保育所の理解に繋がった。

○保育活動においては、月ごとに自己評価を行い、内容等の確認や見直しを行えた。

また、子どもの人権尊重、擁護等全職員で確認、研修を行う。

○事故防止について、月ごとの会議の中で、また朝礼等で「ヒヤリハット」「事故報告」を行い、再発防止に

努めた。